

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	療育支援サカセル 上山門事業所		公表日		2025年3月26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		こどもの安全性の確保・情緒面への配慮のために、法令に定められた適正な利用定員を守っている。	こどもの特性に合わせ、スペースの確保をしたり、活動スペースを分けたりしている。今後も活動によって適宜判断する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準を満たしており、基準人員に加え、きめ細かい支援を行うために加配職員を配置している。職員全員が資格保有者。	今後も利用状況に応じて、職員の配置を適宜見直していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		生活空間を構造化し、こどもたちにわかるよう工夫している。外階段には滑り止めを設置し、適宜補修を行い、照明を増やすことで安全性に配慮している。	契約時には、教室が2階にあることについて保護者の了承を得ている。こどもの昇降時には職員が必ず見守り、必要に応じてサポートしている。今後も十分留意する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動別（学習・療育等）に部屋を分けている。常に清掃・消毒を行い、整理整頓を心がけ、こどもの安全に配慮している。狭く感じる時には、公園遊びやベランダ遊びを取り入れている。	こどもたちの活動に応じて部屋をつなげたり仕切ったり工夫を行っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		着替えのための簡易更衣室を設置している。状況によっては、個別でクールダウンのために使用できるようにしている。	部屋数が少ないため、現状では個別の部屋を使用することは難しい。必要に応じて区切って使用できるよう、今後も工夫する。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に行う会議において、業務改善について話し合い、目標を設定し、振り返りを行っている。ミーティングにおいて職員と情報の共有を行い、職員の意見を吸い上げ業務改善に繋げるよう工夫している。	今後も情報共有を怠らないよう工夫する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年アンケート調査を実施し、保護者のご意見を受け止め、改善策を考えている。日々の連絡ノートや評価表を通じていただいた意見は職員に共有し、業務改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		必要に応じ、職員の面談の機会を設けている。また、日々のミーティングにおいて職員と情報の共有を行い、職員の意見を吸い上げ、振り返りを行うことにより、業務改善に繋げるよう工夫している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部評価は行っていない。	必要に応じて検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修・オンライン研修の機会を積極的に活用している。メールやFAXで案内が届いている。それを回覧し、周知している。また、法人として講師と契約し、随時研修を行っている。報告書を提出することにより、学びを定着させている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		体幹トレーニングやSST・LSTなどの内容をホームページに掲載、また、年間イベントをホームページやGoogleマップで公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		5領域に分けられたアセスメントや、日々の観察、保護者との会話から、課題やニーズを割り出して、計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		全職員で、児童の良い点や気になる点について、話し合いをしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画をファイリングして回覧することで常に計画書を職員が確認し、計画に沿った支援を心がけている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		通常のアセスメントだけでなく、日々のカリキュラムを通して、児童のことを把握している。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	5領域に基づき、個々の障がい特性等に合わせた支援計画を行い、こどもたちの基盤となっている家庭、そして家族とも連携をとりながら包括的に支援を進めている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	こども一人一人に合った立案を考えて、職員によって支援にばらつきがないように、情報共有のミーティングを行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	体幹トレーニング・運動デイ・工作デイ等の多彩な活動を取り入れている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	児童発達支援管理責任者、作業療法士、職員と話し合い、こどもたちに合った、個別・集団活動を作成して実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援開始前には、個別支援計画に沿って支援が行われるよう、常に職員の意思統一をはかっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援に関する情報共有を怠らないよう、常に気を付けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	毎日、支援を振り返り、記録し、検証をしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	定期的にモニタリングを行い、目標を達成したか検証している。 見直しがある児童の保護者には、提案を打診している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	「4つの基本活動」を組み合わせ、こども一人一人に合わせた支援を行い、職員でミーティングで話し合っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	こどもたちの自立を支援するために、カリキュラム等でスキルを高め、目標を設定している。また、こどもたちが手を伸ばして取れるような場所にあえて素材を置く等、小さなことから自己決定を行う工夫をしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児童発達支援管理責任者や、主に教室で直接こどもの療育に携わっている職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて連携する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校の先生に見学に来ていただいたり、学校の様子やデイでの様子をお互いに共有したりしている。お迎え時に学校の先生と情報を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相互理解に努め、必要に応じて連携する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	事業所で過ごしていた時の様子を伝え、障がい福祉サービス事業所へスムーズに移行できるよう努めている。	今後も必要に応じて情報提供に努めていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	様々な専門分野の研修を積極的に受講している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		プライバシーへの配慮が課題。こどもの安全確保、個人情報等に配慮しながら、必要に応じて、地域交流の可能性について考えていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	基幹センターや他福祉サービス事業所が集まる勉強会には積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時に直接保護者とお話したり、電話や連絡ノートにてこどもの様子を伝えたりと常に行っている。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ご家族参加可能な勉強会を実施し、活用していただいた。子どもたちに対する悩み事を共有し、教室での支援方法について、積極的に研修に出て知識を深め、保護者に伝えるよう心掛けている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時、内容変更時に、都度、保護者連絡をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		担当者会議・モニタリングで、子どもや家族の意向を伺う。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		説明し同意を得た上で、計画書受領サインをいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡ノートに保護者からの相談が寄せられた時は、直接対応や電話等で適切な助言・支援を心がけている。	状況に応じて面談の機会を設けるなど、保護者の相談しやすい環境づくりに努める。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		子ども・保護者参加型のイベントを年1回のペースで計画している。	今後、必要に応じて検討する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		契約時、苦情受付窓口について保護者へお知らせしている。苦情があった際は、職員全員で情報を共有し、問題解決や改善に努めている。	今後も、職員の情報共有を心がけ、苦情に真摯に対応していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		月1回、サカセルだよりを発行し、告知・報告をしている。HP・SNSを用いて、活動について周知している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		職員は入社時に、個人情報の取り扱いについて確認している。書類（鍵付キャビネット）・データの管理を徹底している。SNSの情報管理にも留意している。	今後も、SNSの情報管理にも留意していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもにはホワイトボードによる伝達や絵カードなどで、必要に応じて意思疎通を行っている。各利用児童にノートを配布し、保護者との情報共有に使っている。確実に受け渡しができるよう、必要に応じて電話をかけて補っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			現在は積極的に行っていないが、今後、機会があれば開催して相互理解に努める。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		職員には入社時に周知している。利用児童の保護者には契約時に周知している。また、年間計画を立てて、訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、年間スケジュールに沿って、非常災害時の子ども・職員の避難・救出に関する訓練を随時行っている。	BCPが有効に活用できるよう、常に見直し、現状に合ったものにしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		服薬については契約時に確認している。また、新たに服薬を始めた場合には、保護者と情報共有を行っている。	予防接種やてんかん発作等についても、気になる点は随時保護者と情報共有を行っている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在、対象の児童がいない。	必要に応じて、対応できるように知識をつけていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			随時、支援に必要な研修、訓練を取り入れていく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画を画面にて保護者に説明し、サインをいただいている。	今後は、契約時に保護者に周知する。変更があれば、随時お知らせをしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった際は、職員間で報告と共有を行い、速やかに対策をとっている。	教室内に危険な箇所や場面がないよう、常に見守り、改善を行う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設け、年2回研修を実施している。	

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		個別支援計画には記載していないが、別途、同意書で了承を得ている。	
----	--	---	--	----------------------------------	--